

地域文化創造機構ニューズレター

Institute for Regional Culture Development Newsletter

Vol. 11

2015. 7. 23

活動報告

トピックス 1

国立民族学博物館での研究会

地域文化創造機構 研究員
地域創造学部 教授

安村 克己

追手門学院大学と国立民族学博物館の連携協定にもとづく共同研究「地域文化の継承と創造」の第1回研究会が、2015年6月22日（月）、午後2時から6時まで、国立民族学博物館4階第1演習室において開催された。参加者は、追手門学院大学から3名、国立民族学博物館から6名であった。

今回の研究会では、研究分担課題「観光による地域文化振興」の領域について、追手門学院大学と国立民族学博物館の担当者1名ずつが研究発表を行なった。発表題目と発表者は、次の通りである。

- ・発表1. 観光研究における「文化」と「持続可能性」の意味：安村克己（追手門学院大学）
- ・発表2. 南米アンデスの文化遺産の保護・活用への住民参加をめぐる諸問題：關雄二（国立

民族学博物館）

2つの発表にもとづき、地域文化の持続可能性をめぐる観光の役割、地域の文化継承における地域住民と観光客の関係、文化遺産という場の「活用」法などについて、盛んな意見が交わされた。研究発表と議論の後には懇親会が催され、その場でもさらに論議が深められた。参加者は少なかったが、「観光による地域文化振興」についての論点が浮き彫りとなり、実りある研究会であった。

今後の研究会については、第2回が8月に追手門学院大学で、第3回が10月に国立民族学博物館で開催される予定である。

また、2016年1月には、共同シンポジウムの開催が企画されている。

トピックス 2

「子どもまちづくり塾」開催

地域文化創造機構
客員研究員

田中 正之

7月4日（土）、5号館604号室で、「ミツバチを通して『まちづくり』考える」をテーマにした、茨木市主催の「子どもまちづくり塾」が開催されました。

親子連れのほか、ミツバチに関心のある方も参加され、「追大ミツバチプロジェクト」の学生と担当の今堀准教授の進行で、楽しい塾が展開されました。

学生によるオリジナル紙芝居「花子とミツバチ」には、参加した子ども達が楽しんで見入りました。

続く、ミニ講座では、子ども達の思わぬ質問が相次ぎました。「働き蜂は、全てメスです」「ニホンミツバチは、スズメバチを集団で襲い熱で殺します」という話に、「どうしてメスなの？」「冷たいのは？水をかければ？スズメバチは殺していいの？」など素朴な質問に先生が、たじろぐ場面もありました。

1時間を過ぎて参加者の集中力が途切れた頃に、ニホンミツバチとセイヨウミツバチの蜂蜜を試飲してもらいました。一様に「美味しい」

と味わっていました。

そして、メインイベント。キャンパスで飼育しているミツバチの見学とプロジェクト誕生のきっかけとなった、

天然のニホンミツバチが巣を作っていた大学近くのムクノキを全員で見に行きました。青々と茂るキャンパス内の自然を満喫した後、集会所に戻り、本日の感想を書いて頂き、次回の説明をして散会となりました。

次回10月17日（土）までに、ニホンミツバチや巣を見つけたらその場所を記録しておく事、蜜源植物であるコスモスの種を渡し、育ててもらう事を参加した皆さんにお願いしました。

将来、一家に一鉢ミツバチ達の蜜源が花咲く「まちづくり」が広がる予感を感じた一日でした。



ミツバチの巣を囲む参加者

追手門学院大学と大阪府が主催するウッドマーケティング講座が7月18日（土）午後、梅田サテライトで始まりました。受講生に木材の生産・流通をマーケティングという新しい切り口から捉えてもらうことで、大阪府内産木材の生産・流通・利用拡大のコーディネーター役に育ててもらおうという狙いです。10月31日まで計5日間、9講義が開催されます。

18日の講座では山本達也・大阪府環境農林水産部森づくり課参事が「今年1月、大阪府と追手門学院は『環境教育及び環境保全活動の促進に関する協定』を結びました。今回の講座は協定に基づく第一弾です。木材関連産業が活発な大阪で新たな需要創出ができればと願っています」と挨拶。初回とあって参加者26人が自己紹介。山林地主、木材切りだしの作業員、木材市場の担当者、建築設計士、建材メー

カー社員らが講座への抱負を語りました。また、祖父が山林地主であることから、地域創造学部1回生の学生も参加しました。

18日は追手門学院大学経営学部の朴修賢准教授が「マーケティング概論」、岡崎利美准教授が「企業経営について」を講義しました。夕方からは講師、参加者同士の交流会も開かれ、国産材の流通、販売を巡って熱い議論が続きました。



マーケティングの講義に聞き入る受講生たち

天神祭を前に祭りのネタばかり集めたナカノシマ大学寄席「天神祭の極意」（追手門学院共催）が7月21日（火）18時半から追手門学院大阪城スクエアで開かれました。古典落語には天神祭を扱った演目はなく、この日かけられた三つの噺はいずれも新作。熱心な落語ファン320人が詰めかけて満員の盛況でした。



軽妙なトークを繰り広げた（右から）笑福亭生寿さん、笑福亭たまさん、林家花丸さん

この日は笑福亭生寿

さんが、忠臣蔵の大石内蔵助と吉良上野介が天神祭で出会っていたという「仮名手本天神祭」、笑福亭たまさんが、天神祭の日に結婚した菅原君がそのまま船渡御に参加するという「菅原君の祟り」、林家花丸さんが、御迎え人形に商家の娘が恋してしまうという「御迎え人形の恋」を熱演。船渡御で繰り返される「大阪締め」も登場して、「打ちましょ…もひとつせ」と手締めに爆笑が混じるにぎやかな寄席になりました。

中入りの後は大阪天満宮文化研究所、追手門学院大学客員教授の高島幸次さんの司会で落語家3人の天神祭トーク。大石内蔵助の妻子が天神祭見物に送り出されていたといううんちくに観客もうなっていました。

この日は笑福亭生寿

お問い合わせ

地域文化創造機構 ニュースレター

発行／追手門学院大学 地域文化創造機構

追手門学院大学 地域文化創造機構 「連携考房 童子」
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202（阪急茨木市駅前「Socio-2」2階）
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp